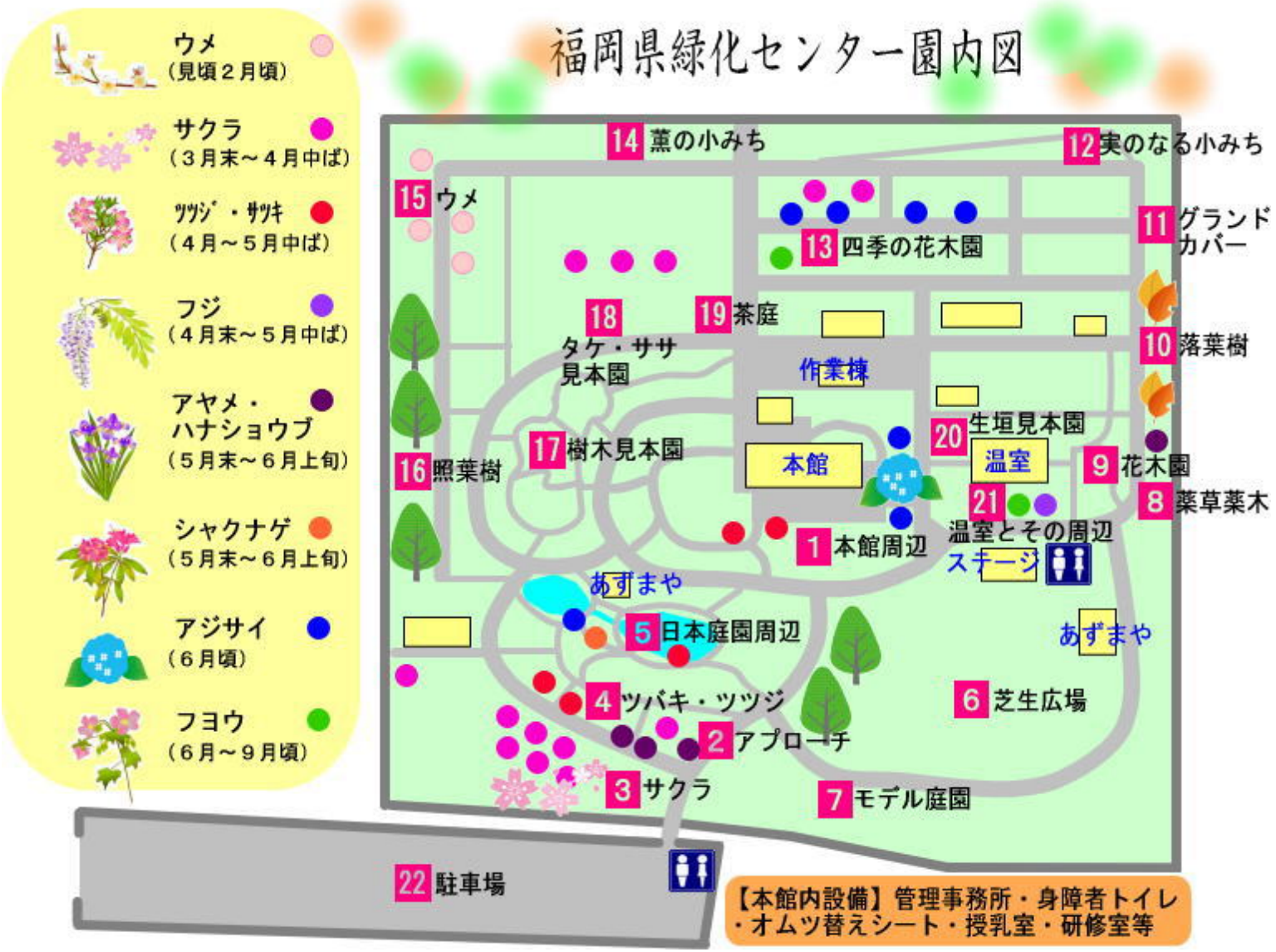
福岡県緑化センター

園内ガイドマップ

このガイドブックは「緑化センターだより」（No.67　2009.2発行） を再編集したものです。
園内散策にご利用ください。

園内マップ



★見頃の時期は気候によって変化します。お出かけの際はセンターホームページでご確認ください。（http://www.ryoku-cen.net/customer6/index.html）

お散歩日和に、一度園内を散策してみませんか？
新緑から活力をもらったり、紅葉に気持ちが安らいだり・・・、当センターは緑化講習会や緑のイベントを行う他に、日常的に皆さんの憩いの場になればと思っています。

参考

①～22　の順にゆっくり回ると、約60分かかります。（個人差があります。）

春コース

①→ツツジやサツキを楽しみながら→サクラやハナショウブを楽しみながら②→③→④→スイレンやアジサイを楽しみながら⑤→⑦モデル庭園の向こうに春の耳納連山を眺めて→⑩ヒトツバタゴを見ながら→⑬春の花木園→⑮梅の花や初夏の新緑を楽しみながら→21　オオデマリやフジなどを楽しむ（約45分）

秋コース

①→⑦モデル庭園の向こうに秋晴れの耳納連山を眺めて→⑧メグスリノキの紅葉など→⑩落葉樹見本園の紅葉を楽しみながら→⑬秋の花木園→⑲茶庭でコナラの紅葉を眺めて一休み。→⑰ニシキギやイロハモミジの紅葉を楽しみながら→⑤を左手に眺めながら→③ラクウショウなどの紅葉を見て→22　ユリノキやケヤキの紅葉などを楽しむ（約50分）

目次

①本館周辺・・・4
②アプローチ・・・4
③サクラ園・・・5
④ツバキ・ツツジ見本園・・・6
⑤日本庭園周辺・・・6
⑥芝生広場・・・7
⑦モデル庭園・・・7
⑧薬草薬木見本園・・・8
⑨花木園・・・9
⑩落葉樹見本園・・・9
⑪グランドカバー見本園・・・10
⑫実のなる小みち・・・10
⑬四季の花木園・・・11
⑭薫の小みち・・・12
⑮ウメ見本園・・・12
⑯照葉樹見本園・・・12
⑰樹木見本園・・・13
⑱竹笹見本園・・・14
⑲茶庭・・・14
⑳生垣見本園・・・14
21. 温室とその周辺・・・15
22. 駐車場周辺・・・16
主な樹木名一覧・・・17
利用案内・参考文献・・・18

園内ガイド

①本館周辺

ツツジのピンクと青空とのコントラストが美しい

オタフクナンテン（メギ科）→

常緑低木。
寒くなると赤い紅葉する。
ナンテンのような赤い実はならない。

←シナヒイラギ（モチノキ科）

ヒイラギはモクセイ科だが、シナヒイラギやセイヨウヒイラギはモチノキ科。
常緑低木。葉は互生。
4～6月に黄緑色の小さな花がつく。
11～12月ごろ、直径約1cmの赤い実がつく。

本館前より芝生広場を眺めた風景

←コブシ（モクレン科）

落葉高木。葉は互生。
3月に葉に先立って香りのよい白色の花をつける。開花すると同時に一枚の葉をつける。
写真は10月。この果実を握りこぶしに見立てたのが名前の由来。
果実は少しずつ赤くなって最後は黒褐色になる。

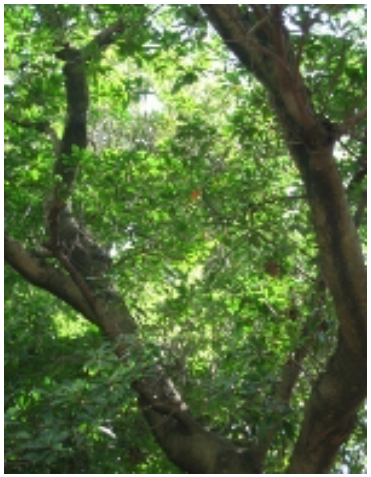
②アプローチ

←モミジバフウ（マンサク科）

落葉高木。葉は互生。
フウの葉が3裂するのに対し、5～7裂してモミジの葉に似ているためモミジバフウの名がついた。
別名アメリカフウ。

マテバシイ（ブナ科）↑

常緑高木。葉は互生。花期は6月。
雄花、雌花共に淡黄色で、穂状になって斜めに立ち上がる。
大きめのドングリは翌年の秋に実る。



←ホルトノキ（ホルトノキ科）
常緑高木。葉は互生。
花期は7～8月。
11月から2月にオリーブに良く似た楕円形の果実が黒く熟す。
葉がヤマモモに似ているが、常緑の葉と一緒に赤く紅葉した古い葉がつくので見分けがつく。

←メタセコイヤ（スギ科）
落葉高木。葉は対生。
大昔に絶滅した化石植物と思われていたが、1945年に中国四川省で発見された。
「生きた化石」として、公園や街路樹として植えられている。
葉は秋になると赤褐色に紅葉する。
円錐形の樹形が美しい。

③サクラ

←サクラ類（バラ科）
ソメイヨシノ、オオシマザクラ、サトザクラ等。
落葉高木。葉は互生。
品種によって葉、花、幹等に違いがある。
オオシマザクラは葉にサクラ独特の甘い香りがあり、桜餅を包むのに若葉の塩漬けしたものを使っている。
ソメイヨシノの葉には香りはほとんどない。
当センターの見ごろは3月下旬。

←ラクウショウ（スギ科）
落葉高木。葉は互生。
樹皮は赤褐色で薄くはがれる。
原産地では沼地などに生える木で、そのような場所では木の周囲の地面に膝根と呼ばれる呼吸根を生やす。
和名のラクウショウは「落羽松」と書き、側枝に生えた葉が、秋にその側枝ごと落葉することに由来している。ヌマスギともいう。

④ツバキ・ツツジ見本園

←ツツジ類（ツツジ科）

常緑低木。当センターの見ごろは4月下旬から5月中旬。
サタツツジ・：小型常緑性ツツジ。花数多い。枝の先に多数の花がつく複芽をつける。丸みのある葉をもつ。クルメツツジの母体。
ケラマツツジ：大型常緑性ツツジ。花は大輪。葉は濃緑色。南国的。外来のケラマツツジが日本産のキシツツジやモチツツジと交雑して、たくさんの変異が生じた。その中の一つがヒラドツツジ。
サツキはツツジの中の一種。
ツツジは4月、サツキは5月が中心といった開花期の違いを参考に見分ける。

シラカシ（ブナ科）→

常緑高木。葉は互生。樹皮は灰黒色。葉は狭長楕円形。
葉の裏は灰緑色で、ウラジロガシ（葉の裏が白灰色）と区別できる。
材の色がアカガシに比べて淡いのでシラカシと呼ばれる。

↑ハナショウブ（アヤメ科）

耐寒性多年草。宿根草。
当センターのハナショウブは5月下旬から6月上旬が見ごろ。
アヤメが乾燥に強いのに比べ、ハナショウブは湿性地を好む。
ハナショウブを含むアヤメの仲間は、花の咲いた茎の両脇に小苗ができており、それが来年に花をつけるので、花の終わった茎は花後すぐに根元より切り取って、若苗に十分日を当ててやることが大事。

ツツジ見本園のモミジ

⑤日本庭園周辺

セイヨウシャクナゲ（ツツジ科）↑

シャクナゲとはツツジ科ツツジ属の常緑低木数種の総称。
広くはセイヨウシャクナゲおよびその園芸品種なども含むが、狭義にはアズマシャクナゲおよび西日本のツクシシャクナゲを指す。後者のシャクナゲは夏の日差しや乾燥に弱いため、管理が難しい。
セイヨウシャクナゲとは、特に西欧で、アジア等のシャクナゲ野生種を改良した、常緑で赤、紫、ピンク、黄等多彩で豪華な大輪の花を枝先に咲かせる品種群を総称した名である。当センターの花はピンクで、5月中旬頃が見頃。在来のツクシシャクナゲより一般に栽培しやすく、日陰の庭の花として植えることができる。

←日本庭園の池にうかぶスイレン
スイレンは5月から9月ごろまで見られるが、6月頃のアジサイとのコントラストが美しい。

⑥芝生広場

←トウカエデ（カエデ科）
落葉高木。葉は対生。
原産は中国東南部と台湾であるため、「唐楓」と呼ばれる。
サンカクカエデとも呼ばれるように、葉の形が3浅裂した倒卵形である。

全体に紅葉した秋晴れの日は美しい↑

←毎年10月頃、緑（もしくは紅葉）の中で音楽会を開催している

ブラシノキ（フトモモ科）↓
見ごろは5月から6月上旬。
枝先に固まって咲く花から長い雄しべが突き出し、びんを洗うブラシに見えることが名前の由来。
他にキンポウジュ、マキバブラシノキなどの呼び方がある。

⑦モデル庭園

平成18年度より、毎年モデル庭園を展示している。（写真は22年度）
一般公募した団体及び造園会社等がテーマをもった作品を作り上げる。
年度末に作成するので、毎年年度初めに新しいモデルを見ることができる。

センペルセコイヤ（スギ科）→
世界の大木の一つだが、当センターでは大きくなりすぎないよう管理している。
メタセコイヤと似た名前だが、こちらは常緑高木である。葉は対生。
一見、不格好に見えるが、つとめてこれが自然な樹形でもある。
生長が早く、50年で25mになるといわれる。

←カンレンボク（オオギリ科）
落葉高木。葉は互生。別名キジュ（喜寿）。
樹皮は灰白色でなめらか。葉身は楕円状卵形または長楕円形。
8月頃、淡緑黄色で5片の花が集まった球形の頭状花序をつくる。徐々に黄色になっていき、1月頃には褐色になりばらける。

⑧薬草薬木見本園

↑クコ（ナス科）

写真はクコの実。
若葉は山菜として食用したり、血圧低下作用を期待しお茶として食すことも。
果実は血圧、血糖低下作用があるという。

←メグスリノキ（カエデ科）

落葉高木。葉は対生。
民間療法で樹皮の煎じ汁を目の洗浄に用いたことが名前の由来。
葉は小葉3枚からなる三出複葉。
紅葉が美しい。

ミツバアケビ（アケビ科）→

落葉つる性大本。葉は互生。
アケビが5枚の小葉からなる掌状複葉であるのに対し、これは3枚の葉からなる。
果実はアケビ同様食べられる。
アケビには利尿作用、抗炎症作用があるという。

←ボケ（バラ科）

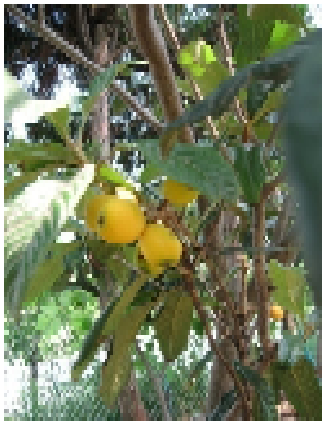
写真はボケの実。
花期は4～5月頃。
ボケの果実は7～8月頃、黄色に熟し、砂糖漬けや果実酒として利用されている。
疲労回復に効くとされている。

ムベ（アケビ科）→

常緑性つる大本。葉は互生。
果実を食すほか、茎や根にも強心剤や利尿剤としての効果があるといわれる。

ビワ（バラ科）↓

常緑高木。葉は互生。
ビワの葉にはサポニン、アミグダリン、ビタミンB1、タンニンなどを含み、他の生薬と配合して鎮咳、去痰、健胃などに用いられる。



⑨花木園

←ムクゲ（アオイ科）
落葉低木。葉は互生。
花は一日でしおれるが、次々に咲き続けるので、長く美しさを楽しめる。
当センターでは6月～9月頃まで美しい花を咲かせる。

←アメリカザイフリボク（バラ科）
落葉小高木。葉は互生。
4月頃枝先に白い花が密集して咲く。
果実は黒紫色～赤紫色で、6月ごろたくさんついている。
別名ジューンベリー。

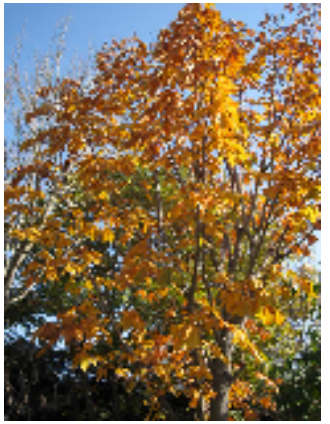
ヒメウツギ（ユキノシタ科）↑
落葉低木。葉は対生。
4月下旬から5月、狭い円錐花序を出し、1～1．5cmの白い花を多数つける。

⑩落葉樹見本園

←センダン（センダン科）
落葉高木。葉は互生。
写真は初冬に実をつけているところ。
5～6月には淡紫色の花を多数つける。
生長が早く、かなりの大木になる。
和名は「センダマ（千珠）」の意味で、実の付き方が数珠を連ねているように見えることからきたという説がある。

↑ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）（モクセイ科）
落葉高木。葉は対生。葉身は楕円形または広円形。
樹皮には縦に割れ目がはいる。
当センターには現在落葉樹見本園のほか、四季の花木園（冬のゾーン）にもある。
5月の連休のころには、白く芳香のある花を美しく咲かせる。
別名のナンジャモンジャは本種の名前がわからないために、そう呼んでいたという。

トチノキ（トチノキ科）→
落葉高木。葉は対生。
葉は5～9枚の小葉からなる掌状複葉。
十分な灰汁抜きをして栃もちなどに利用される。（下の写真はトチの実）



⑪グランドカバー見本園

←ツルマサキ（写真奥）　（ニシキギ科）
常緑つる性低木。
世界中で鉢物やグランドカバーとして栽培されている。
性質は丈夫で栽培が容易。

ニシキテイカカズラ（キョウチクトウ科）→
常緑つる性低木。
白色のちに淡黄色の甘い香りの花を5月ごろ咲かせる。
江戸時代から栽培され、園芸品種も多い。

ヤブラン（ユリ科、スズラン科の説あり）→
常緑性で樹林の下草として群生する。
初秋の頃に葉の間から花茎をのばし、紫色の小花を多数つける。写真は実（12月）。耐寒性もあり丈夫。

ホソグミ（グミ科）↓
常緑低木。樹皮は灰褐色で割れ目が入り、縦に長く紐状に剥離する。
葉は披鉢形から長楕円形。
くすんだ灰緑色。初夏に内側が黄色、外側が銀白色の花を咲かせる。
別名ロシアンオリーブ。

←オリーブ（モクセイ科）
常緑小高木～高木。樹皮は灰緑色。
5～7月、枝先に黄白色で香りのある小さな花を多数つける。
若い果実は塩づけ、熟した果実はオリーブ油として利用される。

ダイオウグミ（グミ科）→
落葉低木。葉は互生、対生さまざま。
当センターのグミはダイオウグミ（ビックリグミ）で、5月頃大きい実をつける。

⑫実のなるこみち

←シャシャンボ（ツツジ科）
常緑低木～小高木。7月ごろ白色の花が咲く。
写真は12月上旬。
シャシャンポともいう。

ラズベリー（バラ科）→
キイチゴ属ラズベリー。落葉低木。花は白色。
花後、小核果が集まって一つの果実を作る。
果実の色は紅、黒紫など。
酸味が強い。

⑬四季の花木園

◎春の花木園

アセビ、アメリカザイフリボク、オオデマリ、ギンヨウアカシア、サトザクラ、オオサカフユザクラ、オカメザクラ、カワズザクラ、コデマリ、シデコブシ、モクレン、クルメツツジ、ドウダンツツジ、ハナカイドウ、ハナズオウ、ヒトツバタゴ、ベニドウダン、マンサク、ミツマタ、ハクモクレン、モモ、ライラック、レンギョウなど

◎夏の花木園

アメリカリョウブ、ウツギ、カシワバアジサイ、キョウチクトウ、キンシバイ、サルスベリ、シモツケ、フヨウ、スモークツリー、タニウツギ、ブラシノキ、ムクゲ、ヤマボウシなど

◎秋の花木園

イロハモミジ、ガマズミ、ギンモクセイ、サザンカ、ニシキギ、ハギ、ハクサンボク、 マユミ、ムラサキシキブなど

◎冬の花木園

ウメ、オウバイ、コトネアスター、センリョウ、ツバキ、ナンテン、ヒイラギ、 ヒイラギナンテン、ピラカンサ、マンサク、マンリョウ、ロウバイなど

↑アセビ

←スモークツリー

サルスベリ→

←ウツギ

↑ハナカイドウ

↑ハナズオウ

サンシュユ→

マンサク→

⑭薫のこみち

←クチナシ（アカネ科）
常緑低木。葉は対生。
6月ごろ強い芳香のある白い花をつけ、あたりに良い香りが漂う。
写真は12月上旬に撮影したクチナシの実。
果実はラーメン、きんとんなどの黄色の着色料として用いられる。
その他漢方や食用染料としても使われている。

バイカウツギ（ユキノシタ科）→
落葉低木。葉は対生。ウツギとは別属のバイカウツギ属。ウツギ属は花弁や萼（がく）が5枚であるのに対し、バイカウツギ属は4枚。
花期は6～7月。
花が梅の花を思わせることが梅花空木の名前の由来になっている。

クヌギ（ブナ科）→
落葉高木。葉は互生。
クヌギの名は全国で広く生育しているため「クヌギ（国木）」に由来するといわれている。
クヌギ林にはカブトムシやクワガタが産卵するため、9月には幼虫が腐葉を食べて成長していることが多い。
成虫にとってクヌギの樹皮は爪がかかりやすいため、登りやすく、樹液は格好の食べ物といえる。

⑮ウメ見本園

←ウメ類（バラ科）
落葉小高木。葉は互生。花期は2月。
ウメは福岡県の県木。ウメの園芸品種は多数ある。
前年枝の葉腋に紅色または白色で芳香のある花を1～3個つける。
また、初夏の新緑の美しさも楽しんで頂きたい。

⑯照葉樹見本園

↓照葉樹見本園入口

バクチノキ（バラ科）→
常緑高木。葉は互生。葉は長さ10～20cmと大型で鋸歯がある。
特徴的なのはその樹皮で、薄片になってはがれ、その後が赤みのある斑模様になる。
名前は樹皮がはがれる様子を、博打で負けて身ぐるみはがされるのに例えたもの。

←ヒメユズリハ（トウダイグサ科）
常緑高木。葉は互生。
ユズリハは葉が下向きに垂れるが、ヒメユズリハは葉が小さく、やや硬いので垂れ下がりはしない。
ユズリハ属は若葉が伸びてから古い葉が落ちるので、親が成長した子にあとを譲るのに例えてめでたい木とされ、古くから正月の飾りに使われる。

←ハマボウ（アオイ科）
落葉低木。葉は互生。
和名は浜に生えるホオノキの意味。
海岸の沼地によく生え、花は夕方にはしぼむ一日花。
7月ごろ、柔らかい黄色の花をたくさんつけて、夏らしさを感じさせる。
秋に熟すと5裂して腎形の種子を多数出す。

⑰樹木見本園

←ニシキギ（ニシキギ科）
落葉小高木。葉は対生。和名は秋に美しく紅葉するため。
特徴的なのは枝にコルク質の4枚の翼が発達することで、この形が矢羽を思わせるため、古く「おにやがら」といい、鬼を退治するとされた。

木漏れ日の中を散歩するのも気持ちいい↓

シナサワグルミ（クルミ科）→
落葉高木。葉は互生。樹皮は灰褐色で縦に深くさけて剥がれる。
雄花序は長さ5～7㎝、雌花序は5～18㎝と長く、ともに垂れ下がる。
初夏の太陽に透きとおる緑が美しい。

イロハモミジ（イロハカエデ）　（カエデ科）↑
落葉小高木～高木。葉は対生。葉はほぼ円形で5～7裂し、掌状。和名は7裂する裂片を「いろはにほへと」と数えることに由来する。紅葉も美しいが、新緑も美しい。写真は7月上旬。
写真中央のオレンジ色のものが果実となる。翼果はほぼ水平に開き風に乗って運ばれる。

⑱竹笹見本園

タケ、ササあわせて32種。
タケとササの違いは、皮が早く落ちるものをタケ、長く残って幹を包むものをササと呼ぶ。
オカメザサはササの名がついているが、日本特産のタケ。
この名は、浅草の酉の市でこのササにおかめの面をつけて売ったことに由来する。

コナラ（ブナ科）↑

落葉高木。葉は互生。樹皮は縦に不規則な割れ目が入り灰白色。紅葉が美しい。
落ち葉は燃料や堆肥に利用される。秋はドングリ拾いの園児や児童で賑わう。
コナラのナラの由来は「鳴る」であるとされ、風に揺れる葉が触れ合って音を出すことに基づくとされる。

⑲茶庭

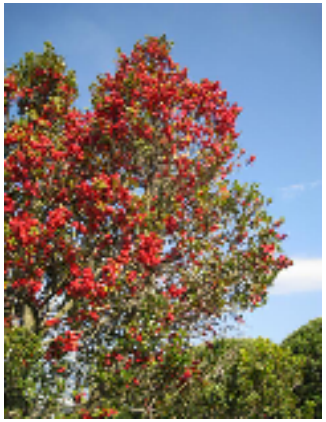
秋の「耳納の市」の際にはここでお茶会を催している↑

⑳生垣見本園

サザンカ、セイヨウカナメモチ、ナンテン、フイリマサキなどの生垣が並ぶ。

アマミヒイラギモチ（モチノキ科）→

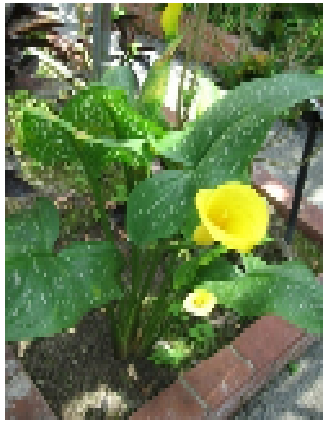
常緑低木。葉は互生。
赤く熟した果実が冬の庭に映える。



㉑ 温室とその周辺

←ブーゲンビレア（オシロイバナ科）
常緑つる性小高木。生育適温は20度以上。
高温・乾燥を好むが、中には耐寒性のあるものもある。強剪定にも耐える。

ハイビスカス（アオイ科）→
常緑低木。別名ブッソウゲ。
温度が確保できれば周年開花を楽しめる。
園芸品種が非常に多く、色や形など様々。

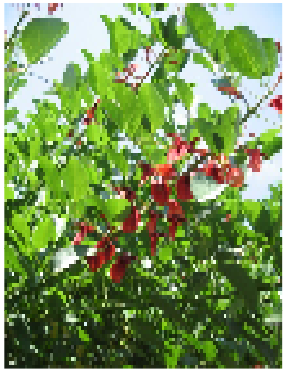


←キバナカイウ（サトイモ科）
ワイシャツの襟に似ていることからカラーリリーと言われ、日本ではリリーを省略してカラーと呼ばれている。花びらのように見えるメガホン状のものは茎の変形で中央にある棒状のものが花。写真は鮮黄色の斑入葉のキバナカイウ（別名エリオチアナ）。

←ヒスピダ（トウダイグサ科）
和名はベニヒモノキ。
西インド諸島原産の低木。
20～50㎝のひも状の花序を下げる。

←フランドリア（パイナップル科）
常緑多年草。ネオレゲリア属。
ネオレゲリア属には葉を観賞する種類が多くある。
フランドリアは葉に黄白色の斑が覆輪状に入り、中央の葉の赤色が鮮やか。

多肉植物
100種程度を集める。
その姿と名前を見比べてみると面白い。



←アメリカデイゴ（マメ科）
落葉低木。6～9月ごろ赤い花をつける。
鹿児島県の県木。アルゼンチン、ウルグアイの国花。別名海紅豆（かいこうず）。

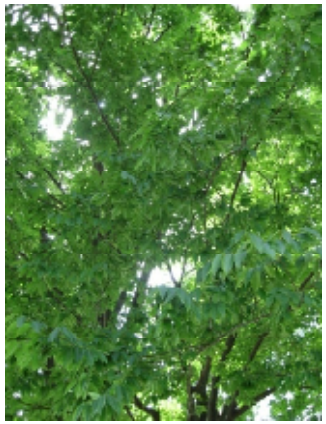
↑フヨウ（アオイ科）
落葉低木。葉は互生。
ムクゲと同時期によく似た花をつけるが、葉がムクゲより大きいので見分けがつく。

オオデマリ（スイカズラ科）→
落葉低木。葉は対生。
4～5月ごろ、白い装飾花を多数咲かせる。白い手まりのような花序は、直径10センチを超えるものもある。

㉒ 駐車場周辺

駐車場の中央緑地部分にはクスノキとケヤキがあります。
また北と南の周囲にはユリノキが並んでいます。

↑ユリノキ（モクレン科）
落葉高木。葉は互生。
樹皮は暗灰白色で、老木で縦に細かい割れ目を生じる。
葉は4ないし6裂。
葉の表は緑色で光沢がある。
独特な葉の形を半纏（はんてん）に見立て、ハンテンボクともいう他、花の形がチューリップに似ていることから、チューリップツリーとも呼ばれる。花期は5月ごろ。



↑ケヤキ（ニレ科）
落葉大高木。葉は互生。
樹皮は灰白色。老木では鱗片状になり剥がれる。
葉は狭卵形あるいは卵状楕円形。
葉の表はざらざらする。
際立った木という意味の「けやけき木」からケヤキになったという説がある。

↑クスノキ（クスノキ科）
常緑高木。葉は互生。
樹皮は縦に細かく割れている。
葉は卵形あるいは楕円形。
葉の表は緑色で光沢がある。
樹木全体に樟脳成分を含んでいるので、耐朽性や耐害虫性が高い。

主な樹木名一覧

樹木はこの限りではありません。
主として一定寸法以上もしくは花の見ごろ等のある樹木を記載しています。

①本館周辺	②アプローチ	ハナショウブ	マテバシイ	⑧薬草薬木	タイサンボク	ヤマモモ	⑬四季の花木	タブノキ	クスノキ	マユミ	セイヨウベニカナメモチ	モッコク
アジサイ	アラカシ	ヒイラギモクセイ	モッコク	アケビ	チャノキ		11ページ参照	ツブラジイ	クヌギ	ミミズバイ	トウネズミモチ	モミジバフウ
イロハモミジ	イロハモミジ	ラカンマキ	ヤツデ	イロハモミジ	ノウゼンカズラ	⑪グランドカバー		バクチノキ	クロガネモチ	ムクノキ	ナワシログミ	ユキヤナギ
ウメ	カイズカイブキ		ヤナギ	エンジュ	ハナズオウ	アベリア	⑭薫の小路	ヒメユズリハ	ケヤキ	ムクロジ	ナンテン	ユリノキ
カナクギノキ	カクレミノ	⑤日本庭園	ヤマモモ	オニグルミ	ヒトツバタゴ	イタビカズラ	アキニレ	ホルトノキ	ケンポナシ	メタセコイア	ニシキギ	レンギョウ
クチナシ	クスノキ	アオキ	ユズリハ	クスノキ	ヒロハムラサキシキブ	セイヨウイワナンテン	アラカシ	マテバシイ	コジイ	モミジバフウ	ハクチョウゲ	
クロガネモチ	クロガネモチ	アカガシ		クララ	フジ	チャボリュウノヒゲ	オオヤマレンゲ	モチ	コナラ	ヤマモモ	ヒイラギ	
ケヤキ	ハナショウブ	アジサイ	⑥芝生広場	サクラ	ムクゲ	ツルマサキ	クチナシ	ヤブニッケイ	コバンモチ	ユーカリ	ヒイラギモクセイ	
コブシ	ヒメユズリハ	アセビ	アジサイ	サルトリイバラ	モクレン	テイカカズラ	コナラ	ユズリハ	サクラ	ユズリハ	ヒサカキ	
サクラ	ホルトノキ	アラカシ	アラカシ	シダレヤナギ	モモ	ニシキテイカカズラ	サクラ	ラクウショウ	サワグルミ	ユリノキ	ビナンカズラ	
サザンカ	マテバシイ	イヌマキ	イチョウ	シュロ	ユキヤナギ	ブルーベリー	ジンチョウゲ	リンボク	シナノキ	ラクウショウ	フイリマサキ	
サルスベリ	メタセコイア	イロハモミジ	イヌエンジュ	スイカズラ	ロウバイ	ヘデラ	チョウジガマズミ		シマトネリコ	リュウキュウマツ	ブルーアイス	
サンゴジュ	モミジバフウ	ウメ	イヌマキ	センダン		マンリョウ	ナラガシワ	⑰樹木見本園	シュロ		ベニバナトキワマンサク	
シダレザクラ		カヤ	ウバメガシ	タラノキ	⑩落葉樹	ヤブラン	ナンキンハゼ	アオギリ	シラカシ	⑲茶庭	ラカンマキ	
シナヒイラギ	③サクラ見本園	クスノキ	エノキ	テンダイウヤク	アオダモ	ヨウシュネズ	バイカウツギ	アキニレ	シリブカガシ	アラカシ		
セイヨウベニカナメモチ	イヌビワ	クロガネモチ	カイノキ	トウカエデ	アキニレ		ロウバイ	アラカシ	スイリュウヒバ	イロハモミジ	21温室	
ソヨゴ	サクラ	クロマツ	カツラ	トウネズミモチ	アベマキ	⑫実のなる小路		イスノキ	スギ	ケヤキ	アメリカデイゴ	
タブノキ	サザンカ	ケヤキ	カンレンボク	トチュウ	エゴノキ	アンズ	⑮ウメ見本園	イチイガシ	スズカケノキ	コナラ	アメリカノウゼンカズラ	
タラヨウ	シダレザクラ	コウヤマキ	キンモクセイ	ナツメ	エノキ	イチイガシ	ウメ	イトヒバ	スダジイ	コブシ	ウツギ	
チャボヒバ	シラカシ	ゴヨウマツ	クスノキ	ビワ	エンジュ	イチジク	ハゼノキ	イヌシデ	センダン	シャリンバイ	キンシバイ	
ツゲ	トウネズミモチ	サクラ	クチナシ	マルバニッケイ	クスノキ	オリーブ	ラクウショウ	イロハモミジ	ソテツ	ナンテン	キンモクセイ	
ツツジ	ヒマラヤスギ	シャクナゲ	ケヤキ	ミツバアケビ	クヌギ	カキ		ウスギモクセイ	ダイオウショウ	ヤブツバキ	コブシ	
ツバキ	ブラシノキ	シラカシ	サクラ	ムベ	コナラ	キョウチクトウ	⑯照葉樹見本	ウバメガシ	タラヨウ	ラカンマキ	ハクモクレン	
トウオガタマ	ホルトノキ	スイレン	シナヒイラギ	モクゲンジ	サクラ	クワ	アラカシ	エノキ	トウカエデ		フヨウ	
ナンキンハゼ	ラクウショウ	セイヨウシャクナゲ	スズカケノキ	ヤブニッケイ	シダレエンジュ	ザクロ	イスノキ	エンジュ	トチノキ	⑳生垣見本園		
ノムラカエデ		センペルセコイア	センペルセコイア	ヤマモモ	センダン	シャシャンボ	イチイガシ	オオカナメモチ	ナギ	アジサイ	22駐車場	
ハナミズキ	④ツツジ・ツバキ	タブノキ	ソテツ		ツブラジイ	ナツグミ	ウラジロガシ	オオバボダイジュ	ナナメノキ	イスノキ	アジサイ	
ヒイラギモクセイ	イロハモミジ	ツツジ	タブノキ	⑨花木見本園	トチノキ	フェイジョア	クロガネモチ	オガタマノキ	ナンキンハゼ	イヌツゲ	カンツバキ	
ヒトツバタゴ	エゴノキ	ツバキ	トウカエデ	アカメヤナギ	ニガキ	ブルーベリー	クロキ	カゴノキ	ハマボウ	イボタノキ	クスノキ	
ヒマラヤヤマボウシ	サクラ	ドウダンツツジ	ハナミズキ	アメリカザイフリボク	ネムノキ	ホソグミ	コジイ	カシワ	ヒマラヤスギ	インドトキワサンザシ	クロガネモチ	
ホルトノキ	サザンカ	ニッケイ	ブラシノキ	オウバイ	ハルニレ	ポポー	コナラ	カツラ	ヒメユズリハ	ウバメガシ	ケヤキ	
モッコク	ツツジ	ハイビャクシン	マンリョウ	クサボケ	ヘラノキ	ユスラウメ	コバンモチ	カナリーヤシ	ビロウ	カナメモチ	コブシ	
モミジバフウ	ツバキ	ハマヒサカキ	ミカン類	サルスベリ	マテバシイ	ラズベリー	サンゴジュ	カヤ	フウ	クチナシ	シナサワグルミ	
ヤマモモ	ナンキンハゼ	ヒイラギモクセイ	メタセコイア	サンシュユ	ムクノキ		シラカシ	カリン	ホルトノキ	サザンカ	ツツジ	
ユズリハ	ニシキギ	ホルトノキ		シモツケ	メグスリノキ		スダジイ	キハダ	マンサク	シモツケ	ヒイラギモクセイ	

※樹木はこの限りではありません。

利用案内

お天気の良い日の散策の他、当センターでは下記のような内容を企画・運営しておりますので、併せてご参加・ご利用くださいますようお願いいたします。

【福岡県緑化センター業務内容】
緑の体感：グリーンフェスティバル会場（5月頃）、音楽会（10月頃）、耳納の市会場、お茶会（耳納の市の時）

緑の学習：緑の教室（全8回5月～12月）、子ども緑の教室（年間4回程度）、緑化講習会（年間20回程度）、造園技能士検定講習及び試験会場、
その他緑に係る講習会等

緑の普及啓発：毎週日曜は樹木医常駐（10時～15時、第5日曜のぞく）、緑センホームページや緑センブログ「緑の相談室」も随時更新

【開館時間・休館日】
開館時間：午前8時30分～午後5時まで　　駐車場開門時間：午前9時～午後4時30分　　休館日：毎週月曜日、12月29日～1月3日
（ただし、7月21日～8月31日までは午後6時まで開館。同期間中の駐車場は午後5時30分まで開門）

緑センホームページアドレス　http://www.ryoku-cen.net/　　ブログ「緑の相談室」アドレス　http://ryokucenblog.livedoor.biz/
〒839－1213　福岡県久留米市田主丸町益生田1125　　電話0943-72-1193　　FAX0943-72-1558

参考文献

園内ガイドは下記を参考にしています。

書名	著者・編者等	出版社
「カラー版家庭園芸栽培大百科」	江尻光一監修	家の光協会
「現職日本植物図鑑木本編Ⅱ」	北村四郎・村田源共著	保育社
「原寸図鑑　葉っぱでおぼえる樹木」	濱野周泰監修	柏書房
「花づくり大百科」		主婦の友社
「葉・実・樹皮で確実にわかる　樹木図鑑」	鈴木庸夫	日本文芸社
「山渓カラー名鑑　日本の樹木」	林弥栄編	山と渓谷社
「山渓カラー名鑑　観葉植物」	高林成年編	山と渓谷社
「山渓カラー名鑑　園芸植物」	鈴木基夫・横井政人監修	山と渓谷社
「365日の花作り・庭作り大百科」		主婦の友社
「NHK趣味の園芸　よくわかる栽培12か月　ツバキ・サザンカ」	桐野秋豊・箱田直紀	NHK出版
「NHK趣味の園芸　よくわかる栽培13か月　ツツジ・アザレア」	国重正昭	NHK出版
「NHK趣味の園芸　よくわかる栽培14か月　シャクナゲ」	倉富祐二	NHK出版
「ツバキとサザンカその魅力と栽培」	ガーデンライフ編	誠文堂新光社